

特集

文化の科学を広め 心を豊かにしよう！

茶木恵子（サイエンスカフェ『理カフェ』）

1. はじめに

最初に断っておきますが、私自身はバリバリ文系人間で、天文はもちろん、科学に関しても素人なので、科学のプロの方々の前でお話をするなんて、厚かましいにも程がある！と私自身も思っておりまして。ただ、単なる科学好きの文系人間だからこそ、純粋に楽しむ科学を広めたいと思い、老若男女を問わず、多くの方々に科学を文化として楽しんで戴きたいという願いを込めて、この講演を引き受けさせて戴きました。

また、この集録は、講演前半の、サイエンス・カフェの部分までとさせて戴きます事、どうかお許し下さい。いずれ機会がございましたら、後半部分の『子ども達に星を観せる会』について、投稿させて戴きます。

2. 文化としての科学

以前、周囲の友人やこども達に理科や科学の印象を尋ねてみた事があります。「むずそ（難しそう）」「ややこしそう」等々、ネガティブな言葉が並びました。（やはり文系周辺！理系の皆さんとは温度差があります。）しかし彼ら彼女達も、病気や天候、環境など、自分に関係のある事柄については強い関心があるのです。こういった事柄は当然、科学の分野であり、好き嫌いに関係なく、私達の周辺は科学でいっぱいである事に気づかされます。また、科学に無関係のように見える、芸術や食やスポーツでさえ、突き詰めれば科学になる訳で、この世は科学で成り立っていると言っても過言ではありません。

そして、こうした関心事については、皆、自ら知ろうとし積極的に探究する姿勢にな

るものです。自発的に取り組む事自体にも、その結果得られた知識や理解に対しても、充実感や達成感、満足感が伴います。また、もっと単純に、美しい星空や天体を眺めたり、強そうなクワガタを見たり、砂糖と重曹でカルメ焼きができた（子供の頃から魅了された、これぞ科学のエンターテインメント！）、挙げればキリがありませんが、こうした、見るだけでも大きな感動を与えてくれる科学が、身の回りにあふれているのではないのでしょうか？自然の神秘は人の心を打ち、豊かにしてくれる物だと思うのです。

人を楽しませ、感動を与えてくれる物と言えば、芸術が挙げられます。音楽を聴いたり、歌ったり、踊ったり、絵画や彫刻を見たり、文学を読んだりするのも同様ですね。又、おいしい物を食べて感動する事もあります。これらは『文化』と呼ばれる物ですが、科学も、文化として捉える事ができると考えます。



図1 科学を文化として捉える

3. 科学普及の取り組み

宇宙の神秘に触れ、自然の真理を追究し、感動したい、楽しんで戴きたい、一緒に幸

せを共有したい、そして、そんな機会や場を作りたいという思いを持つ者が集まって、サイエンス・カフェ『理カフェ』はできました。

3.1 サイエンス・カフェ

(1) サイエンス・カフェとは？

ネット検索によれば、「サイエンスカフェとは、科学の専門家と一般の人々が、カフェなどの比較的小規模な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場」^[1]とあります。つまり、大きな会場で一方的に講演を聴くのではなく、小さな会場で専門家と参加者が目を合わせながら進んで行くのがサイエンス・カフェです。専門家は参加者の様子を見ながら話すので、理解できているか判断しやすく、話題レベルの上げ下げも可能ですし、参加者と問答や、やり取りする事もできます。話し手と聴き手が完全に分かれるのではなく、相互作用があるのです。

また、飲食しながらなので、固い雰囲気はありません（理カフェではアルコールも自由なので、ガンガンお酒を飲みながらお話し下さる先生方もいらっしゃいます）。リラックスした雰囲気、トークショー的な色合いも帯びたり、参加者同士のコミュニケーションも取り易くなります。

(2) 『理カフェ』

「理カフェ」は、科学を身近な話題として、みんなでワイワイ語り合いたいという願いから、2010年に結成されたサイエンス・カフェです。スタッフは、決して科学の専門家ではなく、全員が理科の好きな普通の一般市民です。従って、一般市民の目線や感覚を大切にしていますし、これが理カフェの特徴でもあります。差し詰め‘市

民の、市民による、市民のためのサイエンス・カフェ’と言ったところです。全てゼロからの手作りサイエンス・カフェ（以下、SCと省略）で、毎回は試行錯誤ですが、その、築いていく過程も楽しむようにしています。

また、大学や企業の後ろ盾のない、完全フリーなSCです。これは、経済的には、大変不利で、講師への謝礼も雀の涙ですし、配布資料のコピー代さえ節約しなければなりません。会場費も含め、運営の全てを参加者の会費（勿論、スタッフも参加費を払っています）と、スタッフの出資でまかっている状況です。ただ、完全フリーだからこそ、市民寄りの気楽な雰囲気を作る事ができるというメリットもあります。大学の部屋をお借りし、大学の先生に話して戴く形となると、参加者も学生が多くなりがちで、これでは、大学の講義と大差なくなってしまうです。

私たちは、市民と専門家を繋ぎ、市民と科学を繋ぎ、市民と市民を科学で繋ぎたいのです。ですから、街の中で、ごく普通の方々が楽しむ事のできるSCでありたいのです。



図2 理カフェの様子

また、理カフェでは、専門家のお話の後、同じ会場で懇親会も行うようにしております

す。これにより、様々なメリットがあります。

・時間に余裕。

専門家のお話の時間は普通 90 分ですが、同会場でそのまま懇親会が行われるので、延長が自由で先生方としては時間に追われる心配の少ない S C と言えるでしょう。

・個人的に踏み込んだ質問・話ができる
Q&A の時間に尋ね難い質問、たとえば、あまりにマニアックなものや、基礎的過ぎるもの、当日の話題に直接関係のないものは、懇親会で直接先生に尋ねる事が可能です。

・講師は丁寧に誠実に応える事ができる
Q&A 時間の中で、参加者全員の理解を考慮しながら質問に答えて戴くのは、なかなか難しい事ですが、懇親会時であれば、質問者に合わせて丁寧に応えて戴けます。

・科学の専門家の人間性に触れられる
普段、テレビや講演会場のステージ上にいらっしゃる大先生方は、一般人からは雲の上の存在で、遥か遠くの神様のように思えますが、理カフェでは S C 中もアルコールが自由ですし、懇親会で一杯飲みながらおしゃべりをすると、偉い先生方の人間性に触れられて、大変、親近感が沸くものです。そしてその親近感は、科学への親近感にもなって行きます。

・同じ興味を持つ参加者同士の情報交換や討論、懇親が可能
参加者は、おのずと興味や関心も似ている事が多いので、貴重な情報交換ができ、有意義な懇親時間を過ごして戴けます。

・懇親会の際、専門家が席を移動

これは、最近の工夫ですが、懇親会で講師の近くに座った人だけが沢山講師とおしゃべりできる不公平をなくす方法として、普通は参加者が移動するものですが、時間と手間がかかるので、理カフェでは、講師の方に移動して戴くようにしています。



図 3 理カフェ懇親会（専門家と語り合ったり、情報交換する参加者達の様子）

4. 理カフェ 開催履歴（ポスターより）

第 1 回：『大宇宙の中の私たち』 富田晃彦さん
～写真と星図から見て感じ取る銀河の世界～
第 2 回：『それってマジ？本当にいい？？？』
～身近な感覚で「カガク」を

捉え直してみよう～福澄孝博さん
第 3 回：『流れ星を聞く』 山本道成さん
～電波で流星を観測する方法の紹介～
第 4 回：『SETI 最前線』 鳴沢真也さん
～地球外知的生命探査の現場から～
第 5 回：『日本の宇宙科学のいまとこれから』
阪本成一さん

第 6 回：『SF アニメと天文』 福江 純さん
第 7 回：『古（いにしえ）を語る星★』
～ヒミコにまつわる天変？～作花一志さん
第 8 回：『彗星が教えてくれる

太陽系誕生の歴史』 河北秀世さん
第 9 回：『恐ろしい太陽の話』 柴田一成さん
第 10 回：『ダークマター

ダークエネルギー』 中道晶香さん
第 11 回：『中国の星座と占星術』

宮島一彦さん

5. おわりに

理カフェはまだまだ発展途上で、暗中模索状態ですので、今後少しずつ形も変わって行く事と思います。また、本当に理カフェを作るのは、各回の参加者と専門家であり、それぞれが、異なる理カフェなのです。そして私達スタッフも大いに楽しみながら、文化としての科学を広めて行きたいと思えます。

この機会を下さった天文教育普及研究会近畿支部会の皆さまに心より御礼申し上げます。

文 献

- [1] 日本学術会議サイエンスカフェとは
<http://www.scj.go.jp/ja/event/cafe.html>
- [2] 科学談笑喫茶室『理カフェ』
<http://ricafe2010.web.fc2.com/>

茶 木 恵 子

* * * * *